
第3章

若年層に対する人民党の諸戦略

——締め付け、取り込み、記憶の政治——

新谷 春乃

はじめに

カンボジアでは、1990年代のベビーブーム世代が有権者の年齢に達するなかで、有権者人口に占める若年層の割合は無視しえないものとなり¹⁾、若年層の支持をいかに集めるかが選挙の重要な鍵となっている。そのことが顕著に表れたのが2013年の国民議会選挙であった。ソーシャル・メディアがカンボジア社会に浸透するなか、2013年の国民議会選挙ではその場を利用して野党支持を公言し、救国党の躍進を支える若年層が注目され、選挙結果に大きく影響を与えた（山田2013, 7）。同選挙では政権与党であった人民党が辛勝したものの、同党にとって体制維持の観点から若年層は無視できない存在であると痛感させるものであった。本章では、2013年の選挙以来、若者がいかなる政治経済状況下におかれてきたのか、また人民党は若年層に対していかなる戦略をとってきたのか検討する²⁾。

人民党が若年層に対してとってきた戦略は、言論面での締め付けと、経済面と記憶をめぐる意識面での取り込みから構成される。第1節では若者による政治発信とソーシャル・メディア上の言論の締め付けを検討し、第2節では人民党の経済

1) 2013年の中間人口センサスによると、18歳から29歳までの若年層は有権者人口比全体の約4割を占めており、出生率をみると2018年時点でも同様の割合を占めていると考えられる。

2) 本稿は、『(機動研究中間報告)カンボジア：最大野党不在の2018年総選挙』の拙稿「若者たちと選挙：締め付けと取り込みのはざま」をベースとして加筆修正したものである。

面での取り込みである労働者の給与引き上げと青年組織の活動を検討する。第3節では人民党、とくにフン・セン首相の支配の正統性と関連した記憶をめぐる教育の場や記念日、記念碑などの顕彰事業を分析し、フン・セン首相の英雄イメージ構築が進んでいることを指摘する。最後に、2018年の選挙時の若者の行動を概観し、締め付けと取り込みが奏功したことを指摘する。

第1節 若者による政治発信とソーシャル・メディアに対する締め付け

2013年以降の若年層を取り巻く経済状況は、とくに都市部では外国からの直接投資の増加による就業機会の拡大、最低賃金の上昇などにより改善してきた。その一方で、当局は若者の政治発信への締め付けを強化してきた。若者の情報源・情報発信ツールがインターネットやソーシャル・メディアへと移行するなかで、ソーシャル・メディアでの政治的議論や若者の政治活動はその力を削がれる形で人民党による取り込みや規制の対象となった。

取り込みの最たるものとして、ティー・ソヴァンタの台頭と変節が挙げられる。ソヴァンタは1995年生まれの若年女性で、2013年の国民議会選挙における救国党支持者のなかで最も発信力の強いインフルエンサーであった。しかしながら、2016年2月末に噴出した救国党副党首（当時）クム・ソカーの女性問題をめぐって、クム・ソカーの言動を激しく批判するようになり、その年の11月には彼女とフン・セン首相の次男フン・マヌットとの会話記録がリークされた。その会話内容は、ソヴァンタがクム・ソカーの女性問題を批判するデモを行うにあたり、マヌットにデモに動員できる若者の調達を依頼したものであった³⁾。ソヴァンタはその後もフン・セン首相との親密なチャット会話や金銭授受の疑いがインターネット上で取り沙汰され、かつて彼女とともに救国党を支持した若者を大いに落胆させた⁴⁾。

ソーシャル・メディア上の発言を監視する動きは、カンボジアでも「色の革命

3) 同会話は人民党報道官によって「事実」と認定されている（Sek 2016a）。

4) ソヴァンタとフン・セン首相の関係を扱った記事として Sek（2016b）など。ソヴァンタは2017年の地方評議会選挙直前に人民党支持を明確に打ち出した。

(Color revolution)⁵⁾」を起こそう、と発信した学生が逮捕された後から強化された。「色の革命」は、旧共産圏諸国や中東で起こった民衆の力による政権交代を指し、2015年8月上旬にプノンペンの大学生が Facebook 上で呼びかけた。同大学生は Facebook への投稿から約2週間後に逮捕された。尋問後にプレイ・ソー刑務所へ移送され、翌年の2016年3月に有罪判決を受けた。学生が逮捕された後の2015年末には、フン・セン首相が Facebook ユーザーに対して「監視宣言」を行った⁶⁾。政府はインターネット上の犯罪を取り締まるという目的で、2013年にインターネット犯罪法案を作成するも、市民社会からオンライン上での言論の自由の規制につながるという懸念が示され、2014年12月に同法案を廃案にすると発表していた (Oldag 2015, 12)。しかしながら、「色の革命」問題後、政府はインターネット上の発言を警戒するようになり、法制化はされないものの、フン・セン首相の「監視宣言」により、一般人のインターネット上の発言が取り締まりの対象となった⁷⁾。その「監視宣言」の後、フン・セン首相を Facebook 上で「国家の裏切り者」、「領土や森を売り渡す泥棒」と批判したとして地方在住の若年女性が逮捕される事案が複数件発生した⁸⁾。2018年1月には刑法の改正を行い、国王を侮辱した人物を不敬罪で罰することを可能にした。これはフン・セン政権批判がシハモニ国王批判と結びつけて行われる傾向があることと関連しており、同法案成立後に Facebook 上でシハモニ国王を批判したとして逮捕される事案が複数件みられた⁹⁾。また、選挙を目前にした2018年5月に、政府は、内務省、郵便通信省、情報省に対する通告 (Prakas) で、「国家の安全や社会の秩序を揺るがす」ウェブページやソーシャル・メディアを規制するよう命じた¹⁰⁾。インターネットがカンボジア人の

5) 「色の革命」に対する政府の見解と取り締まりに関しては序章を参照。

6) フン・セン首相は、「色の革命」での逮捕を引き合いに出し、自らの Facebook 上に侮辱するようなコメントを残したユーザーを特定することは容易であり、数時間以内に逮捕することが可能であると発言した (Pech 2015)。

7) Peou (2018) も人民党によるメディア統制の一環で、サイバー犯罪に関する規制を模索してきたことを指摘している。

8) Mech (2017), Ben (2017), Soth (2018) を参照。

9) 不敬罪成立後最初の逮捕は、小学校校長をしている50歳男性と床屋を営む70歳男性であった。小学校校長の男性は救国党解党をめぐってシハモニ国王を批判した罪で逮捕され、床屋の男性はフン・セン首相を「テロリスト」、シハモニ国王を「偽の国王」と批判して逮捕された (Tan 2018; Nachemson 2018)。その後、プノンペン在住の若年男性も、国王を侮辱し、脅迫した罪で逮捕された (Niem 2018)。

10) 2018年5月28日付の通告 (Prakas) 「カンボジア王国におけるインターネット上のウェブページとソーシャル・メディアを通じた発信の統制」より。

主要な情報源となるなかで、インターネット上の言論の自由は 2018 年選挙を目前として急速に締め付けられた。

フン・セン首相に対する批判的発言をめぐる、これまでも野党指導者が名誉棄損の罪で告訴されることはあったものの、一般人が逮捕の対象となることは稀であった。自分も逮捕されるかもしれないという恐怖から、人々のあいだに政治的発言を避ける傾向が強まっている。野党支持を公言し、自由な政治発言が可能であったソーシャル・メディアという場合は、フン・セン首相による監視強化により逮捕者が出るなかで、発言を注意しなければならない「公の場」¹¹⁾となり、萎縮傾向が広がっている。

若年層を対象とした政治活動の取り締まりはインターネット上だけでなく、大学内にも及んでいる。前述した「色の革命」提唱で大学生が逮捕された同月、ホン・チュンナロン教育相は大学・研究所内での政治活動を禁じる通達を出した。同通達は、大学の「中立性」を損なっているとみなした場合、大学を閉鎖し、教員や学生を追放するというものである (Mech and Henderson 2015)。カンボジアの大学構内における政治活動といえばフン・セン首相の妻ブン・ラニーが総裁を務める赤十字組織と三男のフン・マニーが代表を務めるカンボジア青年連盟 (Union of Youth Federation of Cambodia, 以下青年連盟) が主流であった。そのため、同通達は一見これらの活動に制限がかけられたようにみえるが、おそらくそれが通達の主目的ではない。同通達は、大学という場で学生が政治や社会に対する批判的議論をする機会を制限し、今後いかなる大学生の政治活動も困難にした点で重要であり¹²⁾、人民党系の青年組織の活動を規制するものではない。そのことが明らかになったのは通達が出たすぐ後のことである。カンボジア工科大学で 1500 人の学生が参加するセミナーを青年連盟が主催した際、セミナーのなかでハオ・ナムホン外相 (当時) が人民党やフン・セン首相の功績を称えるスピーチをしたにもかかわらず、このセミナーは通達に反しないとみなされた¹³⁾。その一方で、野党関係者の大学内での活動は厳しく制限されている。2017 年 4 月に王立プノンペン大学第 2

11) 逮捕事案をみれば、警察当局はソーシャル・メディアを「公の場」とみなしている。

12) 大学の授業中に与党を批判するような政治的内容については話にくい状況にあるという。筆者による王立プノンペン大学教員へのインタビューより (2018 年 8 月 14 日実施)。

13) 教育省の報道官によると、このセミナーは学期外の休暇期間に開催されたものであり、カリキュラム外であるため問題ないという。また、セミナーを開催するには教育省からの認可が必要であるとの見解が示された (Aun 2015)。

キャンパスで開催されたクメール正月を祝うパーティーの場に卒業生で救国党選出の議員が参加しようとしたところ、それをみつけた人民党支持の学生が通報し、警察が出動する騒ぎがあった¹⁴⁾。人民党がとくに救国党の活動家と大学生との接触を警戒している顕著な事例である。

このように、自由な意見交換の場であったソーシャル・メディアへの監視が強まり、批判的思考を醸成する場である大学や研究機関は政府に対する批判ができない「中立的」立場を求められるなど、若年層を取り巻く言論環境は締め付けの一途をたどっている。

第2節 人民党による若年層の取り込み戦略

このような経済的恩恵と政治的自由への締め付けのはざまにいる若年層に対して、人民党はさまざまな取り込み戦略を打ち出してきた。2013年の選挙で救国党を支持する動きが広がった工場労働者に対しては、最低賃金を年々増額させてきた¹⁵⁾。それだけにとどまらず、フン・セン首相は2017年8月以降、49回の工場視察で70万人の労働者に対して計350万米ドルを配ってきたと報じられている（Kann 2018b）。工場労働者には女性が多く、視察中の演説では、妊娠した労働者に対する雇用の保護や給付金の支給などの政策も打ち出し、支持を訴えてきた。フン・セン首相自身もその様子を自らのFacebook上で公開しており、その視察動画には選挙キャンペーン期間以前から「人民党に投票するように」と繰り返し訴える様子が映し出されている。このような工場労働者に対する取り込み戦略は2018年の選挙における人民党の得票数の増加の一因となった可能性がある。

人民党の青年組織を前身とする青年連盟は、若年層の幅広い取り込みを強化してきた¹⁶⁾。青年連盟は、アンコール・ソンクラーンを主催するほか、選挙監視活

14) 筆者による王立ブノンベン大学教員へのインタビューより（2018年11月1日実施）。

15) 最低賃金の増加をめぐる動向は序章を参照。

16) 青年連盟のホームページ（<http://www.uyfc.org/home/>、2018年12月14日閲覧）の「青年連盟の歴史」によると、1978年に創設され、1979年1月7日から1993年までは国家防衛と再建のために若者を動員・教育し、切磋琢磨させるうえで重要な役割を担ったと記載されている。1993年以降は非営利社会組織かつ非政府組織となったと説明される。この解説のなかには青年連盟が人民党の組織であったことは示されていない。

動やボランティア活動に従事してきた。アンコール・ソンクラーンは、4月のクメール正月の際に催される祭典で、2013年よりシアムリアプのアンコール遺跡群で開催されるようになり、近年では他の州でも開催されている¹⁷⁾。協賛企業も多く、カンボジアで実施されるイベントのなかでは最大規模のもので、ギネス新記録への挑戦を行うなど国際的な注目を集めようとしている¹⁸⁾。青年連盟は前述の教育相の通達以前は、大学構内で熱心なリクルート活動を展開していた。青年連盟の活動に参加することで物品の供与を受け、留学の機会を得ることが可能だという。活動に熱心に参加することで活動参加証明書を得ることができ、それはとくに省庁への就職や昇進に有利といわれている¹⁹⁾。青年連盟は「人民党の組織」という認識が若年層のあいだで持たれているものの、活動に参加することでメリットは多いようで、熱心な活動員となる学生もいる。

第3節 記憶の政治

人民党は記憶の政治も積極的に展開している。1970年代の内戦・虐殺の時代を直接知らない若い世代が有権者の大半を占めるようになるなかで、とくに人民党にとって現代史をめぐる記憶の重要性が高まっている。なぜなら人民党が支配の正統性を訴える上でクメール・ルージュからカンボジアを解放したという点が非常に重要であるためだ。クメール・ルージュ時代（1975～1979年）がいかに悲惨な時代で、そこからカンボジアをいかに解放し平和を築いたかという人民党の功績は、人民党にとって国民のあいだで共有されるべき記憶とみなされている。

そのため現在のカンボジアの教育現場でも現代史教育に力が入れている。ただし、ずっとそうであった訳ではなく、カンボジアの現代史教育は国内政治の影響を受けて変容してきた。1990年代は政府と内戦を継続していたクメール・ルージュ

17) 2017年からスヴァーイリアン州でもソンクラーンイベントが開催されている。

18) アンコール・ソンクラーンの時のみならず、青年連盟はカンボジアの文化的事物に関するギネス記録の申請に取り組んでいる。2015年はオンソームという豚肉やバナナをもち米のなかに入れてバナナの葉で巻いて蒸したものの世界最長記録と、マディソンというラインダンスを2015人で踊り、世界最高記録を打ち立てた。2018年は世界最長の競漕船と世界最長のクロマー（カンボジアのスカーフ）をギネス世界記録に申請し、承認された。

19) 筆者による元王立プノンペン大学学生へのインタビューより（2018年10月31日実施）。

ユとの和解をすすめるためにシハヌーク統治下のカンボジア王国時代（1953～1970年）以降の現代史教育は歴史教育の現場から排除された²⁰⁾。クメール・ルージュに対する投降を促すなかで、クメール・ルージュ時代をどのように教えるかは政治問題化する恐れがあったからだ。クメール・ルージュの最高幹部の投降が進み、最後まで抵抗していた最高幹部のタ・モクが1999年に逮捕され、クメール・ルージュが消滅したタイミングで中学3年生と高校3年生向けの現代史教育が復活した²¹⁾。中学3年生向けは簡易な叙述であったが、高校3年生向けは詳細に現代史を叙述したものであった。しかしこのとき作成された高校3年生向けの歴史教科書は、1990年代の国内政治の描き方をめぐって当時のフンシンベック党党首ノロドム・ラナリットからクレームが入り、回収されてしまった²²⁾。回収後、すぐに改訂版が出ることはなく、詳細な現代史を教える歴史教育は中等教育の歴史教育の現場から再び姿を消した。

その後、クメール・ルージュ裁判（カンボジア特別法廷）が2006年に設置され、2008年に詳細な現代史教育が復活した²³⁾。新シラバスの発行後、新しく歴史教科書が作成され、2011年に中学校用と高校用の現代史を含む歴史教科書が発行された（教育・青少年・スポーツ省2011a; 2011b）。中学校用の教科書は、2001年に作成された高校用の教科書の記述に類似したものであったが、高校用の現代史叙述は刷新された。クメール・ルージュ時代に関する詳細な説明が掲載され、カンボジアに平和をもたらした指導者としてシハヌーク元国王とフン・セン首相の二人を象徴的に提示したものであった（新谷2015, 9-11）。2013年以降、再び教科書の改訂作業が開始された。国定歴史教科書作成にはホン・チュンナロン教育相が執筆委員会に参加し、内容を逐次確認する体制が作られている²⁴⁾。また2017

20) 教員によると、1991年のパリ和平以降、学校内でクメール・ルージュ時代に関する歴史教育を行うことが禁止されていたという（Pin and Reed 2002）。

21) 中学3年生用の教科書は『社会科9年生』（1999年発行）、高校3年生用の教科書は『社会科—地理・歴史12年生』（2001年発行）である（教育・青少年・スポーツ省1999, 2001）。

22) 回収された原因は、1993年の制憲議会選挙でフンシンベック党が勝利したことを一切言及しない一方で、1998年の国民議会選挙における人民党の勝利は言及したという点である。この回収事件は*The Cambodia Daily*で繰り返し報道された。たとえば、Sine and Nhem（2002）。

23) このときに再版された歴史教科書『社会科—地理・歴史12年生』は、1990年代の政治史に関する記述が削除されたものであった（教育・青少年・スポーツ省2008）。

24) 同委員会は、2017年11月にフランス植民地以降の近現代史に関する12年生用の歴史教育資料を発表した（教育・青少年・スポーツ省2017）。新しい教科書の発行は2018年の国民議会選挙以降に予定されているという。執筆委員会委員へのインタビューより（2018年8月14日実施）。

年には国防省からクメール・ルージュからの解放に関するフン・セン首相の個人史を歴史教育のカリキュラムに組み込むよう要請も出た²⁵⁾。どのような現代史を教えるかは人民党のコントロール下におかれ、歴史教育を通したフン・セン首相のさらなる英雄化がすすめられる可能性がある²⁶⁾。

記念日制定や記念碑制作も進められている。2018年から5月20日はクメール・ルージュ時代を「記憶する日」として国民の祝日となった。同日は1980年代にはクメール・ルージュを「嫌悪する日」と呼ばれていたが、1990年代に入りクメール・ルージュに対する投降・和解戦略を政府が打ち出すなかで国民の祝日から外れていた。ただし、通称キリング・フィールドと呼ばれるプノンペン近郊のチューンアエックでは毎年5月20日にクメール・ルージュ時代の虐殺を追悼する式典が行われており、その式典のなかで人民党がクメール・ルージュからカンボジアを救ったという演劇が行われてきた²⁷⁾。

クメール・ルージュ時代の虐殺と、それを打倒した人民党の功績を記憶する日を国民の祝日とする一方で、内戦を終結させ平和を築いたという人民党の功績もまた記憶化する動きが加速している。2018年は人民党にとって「内戦終結」から20周年の節目の年である。カンボジアにおける内戦終結は一般的には1991年のパリ和平を指していわれることが多いが、ここでいう「内戦終結」は1998年末にクメール・ルージュ最高幹部の2人ヌオン・チアとキュー・サンパンが政府に投降したことを指している²⁸⁾。それを記念する「ウィン・ウィン記念碑」が国道5号線からプレックポー橋（通称：リー・ヨンパット橋）を渡った埋立地に建設されている（写真3-1）。一部未完成であったが、2018年12月29日に内戦終結20周年を記念した大規模式典が同記念碑で開催された。建設にかかった費用は1200万米ドルで、大部分はプノンペン都の予算から捻出され、残りはリー・ヨンパットが出資した（Mech 2018b）。リー・ヨンパットは巨大コングロマリットL.Y.P. Groupの総裁でカ

25) この要請に関する詳しい報道は、Mech and Turton (2017) を参照。前述した2017年発行の近現代史に関する歴史教育資料をみるかぎり、この要請ははまだ反映されていない。

26) 歴史認識を利用したフン・センの英雄化に関しては、現代史認識以外の視座からも指摘されている。たとえば、Norén-Nilsson (2016) による16世紀の篡奪王スダチ・コンの歴史イメージ転換とフン・センによるスダチ・コンの政治利用に関する議論がある。

27) たとえば、Kann (2018a) など。

28) 1998年12月29日はヌオン・チアとキュー・サンパンが政府側に投降しようとフン・セン首相の自宅を訪問した日であるという（Mech 2018a）。



写真 3-1 建設中のウィン・ウィン記念碑（2018 年 10 月 29 日著者撮影）。

ンボジア屈指の大富豪であり、2000 年よりフン・セン首相の経済顧問を務め、2006 年には上院議員に選出された人物である。

「ウィン・ウィン」はフン・セン首相がクメール・ルージュを投降させ、和解を進める戦略のなかで掲げた考え方で、「流血もなく敗者もない」という対立している双方が利益を得られるという和解案である。これは「ウィン・ウィン政治／政策」と呼ばれ、フン・セン首相の政治思想の要としてたびたび言及されてきた。同記念碑はリングを彷彿とさせる巨大な尖塔の周辺を一辺が 117 メートルの壁画で覆われたデザインで、その壁画の主演はフン・セン首相である（写真 3-2）。壁画の内容は、フン・セン首相がクメール・ルージュを離反し、ベトナムへ向かった後にクメール・ルージュを打倒するところからはじまり、その後のカンプチア人民共和国の建設、和平への貢献、国民和解の達成で構成されている²⁹⁾。フン・セン首相個人の英雄化を目的としていることは明らかで、さながらその政治人生の絵巻物の様相を呈

29) このようなフン・セン首相の軌跡は、いくつか作成された 2018 年国民議会選挙のキャンペーン映像のひとつでも示されており、選挙キャンペーン期間中に国営テレビでも流された。



写真 3-2 ウィン・ウィン記念碑の周囲を取り囲む壁画の一部。中央にたたずんでいる人物がフン・セン首相（2018 年 10 月 29 日著者撮影）。

している³⁰⁾。地下には図書館の建設も予定されており，学生や若者の利用が期待されている³¹⁾。またこの「ウィン・ウィン政治／政策」の考え方を公教育のカリキュラムに含めることも検討されている³²⁾。2018 年はカンブチア救国団結戦線結成から 40 周年の節目の年でもあり，青年連盟は戦線結成 40 周年を記念するため，フン・センを歴史的英雄と位置づけ，その足跡を追う「歴史を知る 40km ウォーク」を主催し，若年層の参加を促した。教育やモニュメント建設など，フン・セン首相の英雄化が着々と進められている。

30) ティア・バニユ国防相によると，ウィン・ウィン記念碑を他の州にも建設する計画があるという（Khy 2017）。

31) 記念碑のオープニングスピーチでフン・セン首相は，同記念碑は「学生，若者，すべてのカンボジア人が学びし，くつろぎ，運動する場とする」と述べている（Mech 2018a）。

32) 軍の教育機関ではすでに「ウィン・ウィン政治／政策」に関する学習カリキュラムが導入されているという（Voun 2018）。

第4節 静かな選挙

人民党によるさまざまな取り込み戦略や記憶の政治が展開されるなか、2018年の選挙を印象づけたのは「静けさ」であった。2013年の選挙時は人民党と救国党のキャンペーンに参加する多数の若者が印象的であったが、2018年の選挙ではそのような若者の勢いはみられず、ソーシャル・メディア上も同様の静けさがみられた。「家族以外信じない」と疑心を抱く若者もあり、政治関係の発言に注意をする様子がみられた。これは人民党による政治的自由の締め付けが影響したものであることは確かだ。人民党は前回選挙同様に選挙キャンペーンへ参加することで日当³³⁾と食事の配給を行い、キャンペーン開始前にはその引換券を配布する様子もみられた。人民党は大型トラックを改造し、その上で音楽を流して踊ったり、街のところどころにステージを設置してコンサートを行うなど、お祭りのような雰囲気を作りだしていたが、組織された大規模キャンペーンを除き、盛り上がりには欠けたキャンペーン期間であった。

2018年の選挙は最大野党がいないなかでの選挙であり、人民党の勝利は投票前から決まっていたことであったが、その勝利を正当化するためには投票率が重要であった。そのため海外で活動が続ける救国党の活動家らは、投票に行かないようカンボジア国民に呼びかけた。それに対して人民党は投票へ行くよう繰り返し呼びかけ、選挙当日の国営放送でも投票に行った人のコメントを流し、国民への投票圧力をかけ続けた。カンボジアでは投票した証に黒インクを指につけるのだが、このインクなしに翌日仕事へ行くことが怖いという声も聞かれた。このような投票圧力のなか、無効票で対抗する人々が一定数おり、これは人民党の得票に次いで多い票数であった³⁴⁾。

33) プノンペン周辺で参加した場合日当2万里エルで、遠方のキャンペーン活動に参加した場合の日当は4万里エルであった。

34) 詳しい無効票の分布に関しては第1章を参照。

おわりに

人民党は若年層の政治的自由を厳しく抑圧する一方で、若年層を取り込む活動や、記憶の政治を通した英雄イメージの構築に取り組んできた。政治的自由の抑圧は、明らかに選挙に影響を与えた。若年層を中心として 2013 年選挙でみられた活発な政治議論は影を潜め、投票に行かなければ何をされるかわからないという恐怖が蔓延した。一方で、人民党の支持が拡大したことも事実であり、取り込み戦略が奏功した一面もある。

増え続ける若年層人口に対するこれらの取り込み戦略や記憶の政治は今後も強化されるだろう。青年連盟の代表でフン・セン首相の三男フン・マニーは、2018 年の選挙においてコンボンスプー州選出で当選し、9 月の組閣時には国民議会内の教育・青年・スポーツ・宗教・文化・観光担当委員会の委員長に任命されており、今後、若年層に対する国家政策にさらに影響力を持つことが予想される。政治に関して自由に話しにくいという雰囲気も若年層の政治意識にどのように影響を与えるのか。これらの点もふまえて、若年層のあいだで人民党支持が拡大するかどうかは引き続き注視する必要があるだろう。

〔参考文献〕

<日本語文献>

新谷春乃 2015.「現代カンボジアにおける政治指導者像構築の試み：国定歴史教科書と 2013 年選挙キャンペーンの分析を中心として」AGLOS (Special Edition 2014).

山田裕史 2013.「変革を迫られる人民党一党支配体制 (特集 1 カンボジア国家建設の 20 年)」『アジア研ワールドトレンド』No.219: 4-7, アジア経済研究所.

<英語文献>

Aun Chhengpor 2015. "Ministry defends pro-CPP speech at university." *The Cambodia Daily*. 1 September (<https://www.cambodiadaily.com/news/ministry-defends-pro-cpp-speech-at-university-93048/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

- Ben Sokhean 2017. “Fresh arrest over Facebook criticism of Hun Sen.” *The Phnom Penh post*. 18 September (<https://www.phnompenhpost.com/national/fresh-arrest-over-facebook-criticism-hun-sen>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Kann Vicheika 2018a. “Cambodia establishes memorial day for Khmer Rouge victims.” *Voice of America*, 22 February (<https://www.voacambodia.com/a/cambodia-establishes-memorial-day-for-khmer-rouge-victims/4264677.html>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- 2018b. “PM reportedly gifted \$3.5 m to 700,000 working class voters at unofficial campaign events.” *Voice of America*. 6 July (<https://www.voacambodia.com/a/pm-reportedly-gifted-million-of-dollars-to-working-class-voters-at-unofficial-campaign-events/4470736.html>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Khy Sovuthy 2017. “Defense minister calls for additional ‘win-win’ memorials.” *The Cambodia Daily*. 27 February (<https://www.cambodiadaily.com/news/defense-minister-calls-for-additional-win-win-memorials-125816/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara 2017. “Facebook post insulting Hun Sen leads to woman’s arrest.” *The Phnom Penh post*. 28 August (<https://www.phnompenhpost.com/national/facebook-post-insulting-hun-sen-leads-womans-arrest>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara 2018a. “PM plans KR peace celebration.” *The Phnom Penh post*. 22 May (<https://www.phnompenhpost.com/national/pm-plans-kr-peace-celebration>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- 2018b. “Win-Win monument ‘cost \$12M to build.’” *The Phnom Penh post*. 31 December (<https://www.phnompenhpost.com/national/win-win-monument-cost-12m-build>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara and Simon Henderson 2015. “New education ministry ban comes under fire.” *The Cambodia Daily*. 13 August (<https://www.cambodiadaily.com/news/new-education-ministry-ban-comes-under-fire-91534/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara and Shaun Turton 2017. “Proposal to teach Hun Sen’s life story in schools seen as hagiography by some.” *The Phnom Penh post*. 20 June (<https://www.phnompenhpost.com/national/proposal-teach-hun-sens-life-story-schools-seen-hagiography-some>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Nachemson, Andrew 2018. “Monarchy stuck in middle of Cambodia’s conflict.” *Asia Times*. 25 May (<https://www.asiatimes.com/2018/05/article/monarchy-stuck-in-middle-of-cambodias-conflict/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Niem Chheng 2018. “Third violator of lèse majesté law arrested.” *The Phnom Penh post*. 18 June (<https://www.phnompenhpost.com/national/third-violator-lese-majeste-law-arrested>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Pech Sotheary 2015. “Hun Sen warns Facebook users that he’s watching.” *The Phnom Penh post*. 29

December (<https://www.phnompenhpost.com/national/hun-sen-warns-facebook-users-hes-watching>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Norén-Nilsson, Astrid 2016. *Cambodia's Second Kingdom: Nation, Imagination, and Democracy*. New York: Cornell University Press.

Oldag, Andreas 2015. *Freedom of the Press and Media Regulation in Cambodia*. Phnom Penh: Konard Adenauer Stiftung.

Pin Sisovann and Matt Reed 2002. "Textbook delay reflects sensitivity of Cambodia's recent history." *The Cambodia Daily*. 23 March (<https://www.cambodiadaily.com/news/textbook-delay-reflects-sensitivity-of-cambodias-recent-history-30603/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Peou, Sorpong 2018. "Cambodia's hegemonic-party system: How and why the CPP became dominant." *Asian Journal of Comparative Politics* 4 (1) : 42-60.

Sine, Richard and Nhem Chea Bunly 2002. "12th-graders' studies halted by complaint." *The Cambodia Daily*. 26 June (<https://www.cambodiadaily.com/news/12th-graders-studies-halted-by-complaint-32942/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Sek Odom 2016a. "Alleged Chats Between Thy Sovantha and Hun Manith Leaked." *The Cambodia Daily*. 29 November (<https://www.cambodiadaily.com/editors-choice/alleged-chats-thy-sovantha-hun-manith-leaked-121166/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

——— 2016b. "No Plans to Probe Claims That PM Promised Cash to Sovantha." *The Cambodia Daily*. 1 December (<https://www.cambodiadaily.com/news/no-plans-probe-claims-pm-promised-cash-sovantha-121257/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Soth Koemsoeun 2018. "Preah Sihanouk woman accused of insulting Hun Sen with Facebook poem." *The Phnom Penh post*. 3 May (<https://www.phnompenhpost.com/national/preah-sihanouk-woman-accused-insulting-hun-sen-facebook-poem>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Tan Hui Yee 2018. "Second Cambodian man arrested for insulting king on Facebook." *The Straits Times*. 21 May (<https://www.straitstimes.com/asia/se-asia/second-cambodian-man-arrested-for-insulting-king-on-facebook>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

Voun Dara 2018. "Win-Win policy taught to pupils." *The Phnom Penh post*. 26 December (<https://www.phnompenhpost.com/national/win-win-policy-taught-pupils>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

<クメール語文献>

Krosuong abarum yuvochon ning keila (教育・青少年・スポーツ省) 1999. *Seksa sangkom thnak ti 9* (『社会科 9 年生』).

——— 2001. *Seksa sangkom : phumovityea ning brovottevityea thnak ti 12* (『社会科—地理・歴史 12 年生』).

- 2008. *Seksa sangkom : phumovityea ning brovottevityea thnak ti 12* (『社会科—地理・歴史 12年生』).
- 2011a. *Seksa sangkom thnak ti 9* (『社会科 9年生』).
- 2011b. *Brovottevityea thnak ti 12* (『歴史 12年生』).
- 2017. *Brovottevityea (samai anapyeabal bareang : preah reacheanachakr ti2)* (『歴史 (フランス植民地時代—第2次王国)』).

